

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

社会学部では「4年間の一貫教育」、「3つの科目群」、「3つの教育段階」、「7コース・8プログラム制」との基本指針の下、体系的かつ多様なカリキュラムを提供している点は高く評価されよう。また、個々の科目においても初年次教育やキャリア教育、教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する科目、国際性を涵養する科目などが充実している点も評価したい。そのような多様なカリキュラムの裏返しで学生にとっては分かりづらい側面があるが、この点は今年度から教学改革・人事構想委員会を発足させてカリキュラム改革に着手するとのことであるので、その成果を期待したい。

また、社会学部では学生に対する履修指導や学習指導、学生支援が多岐にわたり充実している点、そしてFD委員会を中心とした多くの取り組みがなされている点においても高く評価できる。ただし、現時点では、それぞれの取り組みによって得られる成果や情報が担当者など一部の教員に留まっている場合が多いように見られる。今後はこうした成果や情報を学部全体で共有できるようにし、それぞれの取り組みがさらに充実したものとなることを期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会の評価については、これまでの本学部の取り組みの方向性がおおむね評価されているものと判断し、現状の方向性を維持しつつ、引き続き本学部における教育研究の質の向上に向けて努力していく。

2016年度は、新カリキュラムの内容をほぼ確定し、履修選択の多様性を保持しつつ、より集積的な学修を可能にするカリキュラムを作成することができた。2017年度は、新カリキュラムについて3つのポリシーを再定義するとともに、2018年度からの実施に向けた体制作りを進める。その過程で、本学部での教育・学修の在り方について、教授会全員で現時点での状況や問題を共有しつつ、さまざまな角度からの議論を深めていく。また教学改革・人事構想委員会を継続し、新カリキュラムの実施と教員構成の推移を考慮しながら、将来の人事構想について検討する。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

2016年度大学評価委員会の評価結果においては、社会学部独自の4つの指針の下、体系的かつ多様なカリキュラムを提供することによりその教育課程・教育内容が充実していることが高く評価されている。その一方で、多様なカリキュラムゆえに学生にとって分かりづらい面があることが指摘されていた。社会学部では、2016年度に教学改革・人事構想委員会を設けて、3学科別にその特徴を際立たせかつより集積的な学修体系をもつ新カリキュラムを完成させ、さらにその2018年度実施に向けた準備を本年度の取り組み課題としており、先の指摘に対しても適切な対応がとられていると認められる。

また、学生への修学支援や授業改善に向けては多岐にわたり意欲的な取り組みがなされているが、その成果が学部全体で共有されているか疑問の余地があるとの指摘に対しては、教授会を通じて教員全員の現状認識・問題共有を図る体制を整えるとしており、評価できる。ただし、教授会構成員ではない非常勤講師等との情報共有のための方策についての検討も期待したい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

【構成】学部専任教員3名

【開催日】(1)4月11日、(2)5月9日～15日（メールで回り持ち審議）、(3)3月13日

【議題】(1)2015年度の年度末報告および大学評価委員会評価結果について、2016年度の自己点検・評価シートの作成について (2)2016年度自己点検・評価シート原案について (3)2016年度の年度末報告について

(2) 特記事項

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

社会学部では、学部専任教員3名により構成される質保証委員会が年3回開催されている。学部による自己点検・評価状況について客観的な視点でのチェックとともに、次年度以降の取り組みに向けての提言が積極的・具体的になされており、適切に活動している。

**2 教育課程・学習成果**

**【2017年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

**【学位授与方針】**

社会学部では全学科にわたり、次のような能力を持った学生を育成する方針である。

1. 様々な社会現象に積極的に興味を持ち、自らテーマを設定し、それに関する知識・データを科学的な方法によって幅広く収集・分析できる。
2. テーマの探求に必要な論理的思考力と分析能力、その成果の提示に必要な論文構成能力やメディア技術を駆使した表現能力、外国語の運用能力などが身につけている。

また、学科ごとには、次のような能力を持った学生を育成する方針である。

1. 社会政策科学科：社会諸科学を複合的に用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析し、それを解決するための政策づくりを、市民の視点で担えるようになること。
2. 社会学科：社会学の理論と方法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることをとおして、よりよい社会と人々の生き方を構想できること。
3. メディア社会学科：メディア研究の知見を踏まえて、社会的な現象を批判的に分析する視点を持ちつつ、最新の技術による表現ができるだけでなく、その設計も担えるようになること。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい  いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

**【教育課程の編成・実施方針】**

社会学部では、学士資格に相応しい専門的知識を学修し、幅広い視野と総合的な判断力を身につけることができるように、次のような指針のもと教育課程を編成する。

1. 4年間一貫教育：大学4年間を一貫した体系のなかで捉える。
2. 3つの科目群：授業科目を、「共通基礎科目」「入門科目」「専門科目」という3つの科目群に体系的に整理する。
3. 3つの教育段階：3つの科目群を、「入門期」（1年次）、「能力形成期」（2～3年次）、「総仕上げ期」（4年次）という3つの教育段階に沿って段階的に編成する。
4. 7コース・8プログラム制：特定の専門分野あるいは対象領域によって整理した「コース」と、研究方法や表現ツールによって区分した「プログラム」に、専門科目を体系的に分類する。学生は、「主専攻」（特定のコース）と「副専攻」（特定のプログラムあるいはコース）を主体的に組み合わせ、選択したコースやプログラムの科目を履修することで、自らの関心に沿いつつ専門性を高めていく。

**【7コース＝各学科とのゆるやかな連携関係】**

1. 社会政策科学科：環境政策、企業と社会、コミュニティ・デザイン、国際社会
2. 社会学科：コミュニティ・デザイン、人間・社会、メディア社会、国際社会
3. メディア社会学科：メディア社会、メディア文化、国際社会

**【8プログラム＝全学科】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>①政策リテラシー、②公務員、③社会学総合、④社会調査、⑤情報デザイン、⑥メディア制作、⑦Advanced English、⑧諸外国語中級</p> <p>5. 少人数教育：「共通基礎科目」「入門科目」「専門科目」の学修とあわせ、1年次の基礎演習と2年次以降の専門演習において、少人数での教育を徹底する。</p>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> <li>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen.html">http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen.html</a> (社会学部 HP)</li> <li>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/tokushoku.html">http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/tokushoku.html</a> (社会学部 HP)</li> <li>・<a href="http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000267201008.html">http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000267201008.html</a> (大学ポートレート)</li> </ul>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。執行部、教授会ならびに学科会議、コース・プログラム会議での議論を通して、随時検討し、修正を加えている。</p> <p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。2018年度から実施予定の新カリキュラムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を設置し、学期中に隔週で新カリキュラムの検討を行うとともに、学科科目担当の教員集団とも随時意見交換を行い、全体的な新カリキュラムについては教授会において承認するという手続きをとった。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会議事録</li> <li>・教学改革・人事構想委員会議事録・資料</li> </ul>	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>専門科目について、専門分野・対象領域による科目群(「コース」と、研究方法・分析/表現スキルによる科目群(「プログラム」)からなる2種の科目体系を準備している。学生に「主専攻(特定のコース)と「副専攻(特定のプログラムまたはコース)を主体的・計画的に選択させ、当該科目群の科目を履修させることで、各学生のニーズに沿って専門性を高める仕組みを提供している。</p> <p>1～3年次における留級者はおおむね5%前後にとどまっております(4年次卒業保留は10%強)、大半の学生が先に述べた「3つの教育段階」を順調に進んでいる。また、学生の学修能力の最終到達度を示す指標ともいえるべき「演習3(卒業論文)」の履修率は、毎年度、7割を超えている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> </ul>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>本学部は、大学4年間を一貫した体系で捉えるという指針のもと、学士資格に相応しい深さを備えた専門教育と、幅広い知識と総合的な判断力を育てる教養教育を並行して学修するようカリキュラムを編成してきた。2014年度からは「4年間の一貫教育」「3つの科目群」「3つの教育段階」「7コース・8プログラム制」という基本指針を基軸に、カリキュラムの順次性・体系性をより明確化した。</p> <p>授業科目は、3つの科目群(共通基礎科目・入門科目・専門科目)に体系的に整理され、さらに入門期(1年次)、能力形成期(2～3年次)、総仕上げ期(4年次)という3つの教育段階に沿うよう構成されている。入門期中核的科目である「基礎演習」は専門教育への導入としての位置づけを積極的にもち、選択科目だが履修率は95%に達している。能力形</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

成期・総仕上げ期は、卒業論文執筆をゴールとする「専門演習」と、そのための専門性を学生自らの計画と選択により構築する「7コース・8プログラム制」とで、学修の完成を図っている。

2006年度導入の「7コース・8プログラム制」を、体系的と専門教育の質的向上および学生の自主的研究促進のため、2014年度にコース選択における専門性を強化した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度社会学部履修要綱

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

「共通基礎科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A群)や「国際・社会科学系科目」(C群)に加えて、「自然科学系科目」(B群)についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、2014年度には、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D群)を新設した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度社会学部履修要綱

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習」である。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする学科入門科目およびコース入門科目である。いずれも本学部の4年間一貫教育の中の入門期に位置づけられる。(2.3②を参照)

「基礎演習」は、春学期に大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学び、秋学期にみずからの研究のためのテーマや問題の立て方、論文の書き方等を中心に学ぶ。学科入門科目およびコース入門科目では、2年次および3年次の能力形成期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度社会学部履修要綱

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

学生の国際性を涵養するために、3学科共通で選択できる主専攻として「国際社会コース」を設置している。このコースを選択する学生には、「Advanced English Program」または「諸外国語中級プログラム」の履修を義務づけ、国際性の基礎となる語学力の向上を促している。また大学の派遣留学や短期研修・インターンシップなどへの積極的な参加を推奨するとともに、社会学部独自でもアメリカ・カナダ・中国の大学で学ぶSAプログラム(1 Semesterおよび2 Semester)を実施している。SA留学経験者の帰国報告会は、学生に対して大きな刺激となっている。また海外からの留学生同士、あるいは日本人学生との交流イベントも実施されており、身近な国際交流体験として、多くの学生の参加がある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度社会学部履修要綱

・2016年度 SAパンフレット

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育は、「職業社会論」、実務経験のある教員による「インターンシップ」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「共通基礎科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」(D群)が2014年度から設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> </ul>	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会を中心とした履修登録期間（4月）の全学年対象「教員による履修相談会」（複数日）</li> <li>・成績不振学生を対象とする教員による個別面談（6月実施、2015年度より）</li> <li>・各コース・プログラムの代表者によるコース・プログラムガイダンス（11月末～12月初旬）</li> <li>・主専攻・副専攻選択時期（12月上旬）の1年生対象「教員によるコース・プログラム選択相談会」（複数日）</li> <li>・基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談（随時）</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2016年度教員による履修相談会」の通知掲示</li> <li>・「2016年度コース・プログラムガイダンス」の通知掲示</li> <li>・「2016年度コース・プログラムガイダンス」配付資料と掲示</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>本学部では、1年次に基礎演習・2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。</p> <p>2015年度より、成績不振学生に対して教員による個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部講義概要</li> </ul>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底させる一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行錯誤を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業外になされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部講義概要</li> </ul>	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【履修登録単位数の上限設定】</b> ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。</p> <p>1年次 49単位 各学期 26単位  2年次 49単位 各学期 26単位  3年次 49単位 各学期 26単位  4年次 49単位 各学期 26単位</p> <p><b>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】</b> ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職科目、資格関連科目については、上限を超えて履修登録できる。</li> <li>・成績優秀者については、上限単位数を8単位引き上げる。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> </ul>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会を変えるための実践論」：複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加。</li> <li>・「社会政策科学への招待」「社会学への招待」「メディア社会学への招待」：教員による集団指導。</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会調査実習」「政策研究実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。</li> <li>・「映像制作実習」：映像作品の企画、取材、制作、発表にいたる全過程の体験・修得。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> </ul>	
⑥それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科入門科目(「社会政策科学入門」「社会学入門」「メディア社会学入門」)については、各学科の学生を2つに分けて、導入科目として適正な指導ができるよう配慮している。</li> <li>・語学については、学部が持つ教室のキャパシティの範囲内で均質な学習環境を提供できるよう配慮している。</li> <li>・基礎演習については、演習室の規模に即したクラス編成を実施し、初年次教育が円滑に進むよう配慮している。</li> <li>・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安を教授会で申し合わせている。</li> <li>・実習科目(政策研究実習、政策立案実習、政策データ分析実習、社会調査実習、映像制作実習、広告制作実習、メディア分析実習、クリエイティブ・ライティング、ニュース・ライティング、ウェブ・プランニング実習、ウェブ・ジャーナリズム実習)については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。</li> <li>・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部履修要綱</li> </ul>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例：執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部と教務委員会による全シラバスチェックを実施し、修正が必要と認められた教員への連絡を実施している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度社会学部講義概要</li> </ul>	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業改善アンケートへの学部独自項目「授業はシラバスに沿って行われていましたか」の追加。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業改善アンケート(社会学部)</li> </ul>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部と教務委員会による、GPCAデータ・評価比率データを活用した成績分布の検証(この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている)。</li> <li>・「A+」評価に関する学部独自基準(講義科目は「上位10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目は「上位20%程度」を上限とする)の設定による、評価の厳密性の確保。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A+評価基準について(社会学部独自基準)</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>編入学時における他大学等における既修得単位の認定は、学部が設定する基準(「編入学者および転籍・転部者の単位認定・換算基準」)に基づき実施している。具体的には、教務担当教授会主任と事務課職員が双方のシラバスを照合し、内容が適合すると思われる本学部開講科目の有無を確認の上、定められた単位数の限度内で単位認定する認定原案を作成し、これを教務委員会で検討・承認後、教授会での確認・承認を経て認定を確定させるという手続きをとっている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編入学者および転籍・転部者の単位認定・換算基準</li> </ul>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>厳格な成績評価を実施するために、本学部では「A+」評価について、講義科目については「上位 10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目については「上位 20%程度」を上限とする学部独自の基準を設けている。</p> <p>このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとに GPCA データを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A+評価基準について (社会学部独自基準)</li> </ul>	
④学生の就職・進学状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業時に学部独自のアンケートを実施し、就職・進学状況を把握している。</li> <li>・ 就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、教授会で共有している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ データの把握主体：執行部</li> <li>・ 把握方法：成績分布については、GPA を指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。</li> <li>・ データの種類：学生別 GPA をケースとした個票データ、学科別・学年別・学部全体の集計データなど。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいべき「演習 3 (卒業論文)」の履修率は毎年度 7 割を越えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。今後、GPA の有効活用など学習成果を測定するための他の方法も検討する予定である。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【学習成果可視化の取り組み】</b> ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信 (毎年 11 月)。</li> <li>・ 専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。</li> <li>・ 調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。</li> <li>・ メディア実習科目における作品の公開。</li> <li>・ 優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。</li> <li>・ そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年度優秀卒業論文集</li> <li>・ 2016 年度社会調査実習報告書 (開講クラス別に刊行)</li> <li>・ 2016 年度政策研究実習報告書 (開講クラス別に刊行)</li> </ul>	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

り組みを行っていますか。	
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（各学期末）</li> <li>・英語科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期半ば）</li> <li>・諸外国語・情報実習科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（年度末）</li> <li>・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末）</li> <li>・学科・コース・プログラム会議での情報交換（秋学期開始時）</li> </ul> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2016 年度春（秋）学期・基礎演習担当教員懇談会の開催について」</li> <li>・「2016 年度 諸外国語科目担当者打ち合わせ会 記録」</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。</li> <li>・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度から実施予定の新カリキュラムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を設置し、学期中に隔週で新カリキュラムの検討を行うとともに、学科科目担当の教員集団とも随時意見交換を行い、全体的な新カリキュラムについては教授会において承認するという手続きをとった。</li> </ul>	

## (3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度からの新カリキュラム実施に向けて、3 つのポリシーの再定義や実施体制の整備を行う。</li> <li>・学科カリキュラム運営会議を設置し、新カリキュラムにおける学科ごとのカリキュラム運営の実務的な検討を行う。</li> <li>・教学改革・人事構想委員会を継続し、新カリキュラムと教員構成の推移をふまえた人事構想を検討する。</li> </ul>
--

## 【この基準の大学評価】

### ①方針の設定に関すること（2.1～2.2）

<p>社会学部の学位授与方針は、社会学部の教育理念に照応する全学科共通の能力育成方針と、3 学科ごとの特徴に応じた能力育成方針とに分けて、明確かつ具体的に設定されており、適切である。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、履修要綱並びに学部ホームページ及び外部の大学ポートレート上で周知・公表されている。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証については、2018 年度からの新カリキュラムの実施を控え、教学改革・人事構想委員会における検討、担当分野の教員グループとの意見交換、教授会による承認というプロセスにおいて、主に新カリキュラム導入に向けて学部全体として取り組みがなされており、高く評価できる。</p>
--

### ②教育課程・教育内容に関すること（2.2）

<p>社会学部では、科目体系を専門分野・対象領域（7 コース）と研究方法・分析/表現スキル（8 プログラム）の 2 種に分けて用意し、併せて上記コース・プログラムの組み合わせを学生が選択する「主専攻」「副専攻」制度を採用することにより、学生の専門性を高める仕組みが工夫されており、評価できる。カリキュラムの順次性・体系的についても、体系的・段階的・自律的学修を志向して 4 つの基本的な教育指針が定められ、これに沿う形で適切に確保されている。その一方で、</p>
---

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学生が7コース・8プログラム制をその複雑さのゆえに十分に活用できない可能性が懸念されていたが、2016年度発足の教学改革・人事構想委員会での検討の結果として、2018年度からの新カリキュラム体系の導入が決定されており、その改善が図られていることが高く評価できる。学科カリキュラム運営会議の設置および人事構想委員会の継続により新カリキュラムの円滑な運用に向けての準備体制も整えられており、その検討結果が支障のない移行に結びつくことを期待したい。

教養教育については、「視野形成科目」群を設けて多様な科目を用意し、併せて人文・自然・社会の各分野に専任教員担当科目を置くことにより、専門課程における教養科目学修の意義が学生に伝わりやすい形で提供されている点が評価できる。

初年次教育は、専門教育への導入を目的とする少人数授業と目的別に3群に分けられた入門科目から構成され、適切である。入学前の段階で学部教育への関心を高める方策にも配慮されていればさらに望ましいと言えよう。

国際性を涵養するための教育としては、全学生が専攻できる「国際社会コース」、積極的な留学支援、学部独自のSAプログラム、交流イベントなど多岐にわたって提供され、高く評価できる。また、「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」が設置され、教養教育の一環としてキャリア教育が提供されている点も、低学年よりキャリア意識を高めるものとして優れた取り組みである。

### ③教育方法に関すること (2.4)

社会学部の履修指導は、全学年対象の「教員による履修相談会」、「教員によるコース・プログラム選択相談会」に代表されるように、教員がコミットする形できめ細やかに行われている点が評価できる。学生の学習指導についても、基礎演習・専門演習を通じて段階的・継続的な支援がなされるほか、学生のニーズに広く応える体制がとられており、きわめて適切である。

学生の学習時間を確保するための方策については、シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載が徹底され、また、各教員の工夫において様々な方法で実践されており評価できるが、かかる工夫が教員間で共有され、優れた試みが広く活用されるようにする取り組みも引き続き検討が望まれる。

社会学部では、履修登録単位数について、各年次につき年間及び学期毎の上限が設定され、資格関連科目や成績優秀者に関する例外措置も合理的な範囲にとどめられ、適切である。

基礎・入門科目における集団指導、社会調査プログラムやメディア制作プログラムにおける体験型授業など、科目の特性に応じた効果的な授業形態の提供に向けても積極的な取り組みがなされており、また、1授業あたりの学生数についても、授業形態ごとに適切な配慮がなされている。

シラバスの作成については執行部と教務委員会による全シラバスチェックが実施され、学生による授業改善アンケートへ「授業がシラバスに沿って行われているか」を問う学部独自項目を追加することにより、その検証もなされており、適切である。

### ④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

社会学部の成績評価と単位認定については、執行部と教務委員会がGPCA等の客観的データを活用して成績分布を検証する体制がとられ、また他大学等における既修得単位の認定も学部設定基準を設けて厳密な手続を経て確定されており、いずれにおいても組織的にその適切性が確認されている。成績評価に際しては「A+」評価につき社会学部独自基準を設け、執行部と教務委員会による検証体制の下で、厳格に行われている。

学生の就職・進学状況は、学部独自アンケートとキャリアセンターのデータにより把握され、教授会で共有されており、適切である。

成績分布、進級などの状況については、執行部によって、GPAを指標とした個票データおよび学科別・学年別・学部全体の集計データをもって把握されている。また、学生の学習成果の把握・評価のためには、演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率などの基本的データを執行部、教務委員会および教授会で共有・検討する体制がとられている。学修成果を可視化する取り組みも、専門演習の研究発表会、演習・実習科目における論文集・報告書などの成果の公開やウェブを利用した発信など、様々な方法でなされている点が高く評価できる。

さらに学修成果に関し、基礎科目・実習科目の分野別懇談会などを定期的で開催し、学科・コース・プログラム会議において検証機会を設けるなど、教員間での学修成果の情報共有を踏まえた改善の取り組みがなされており、評価できる。授業改善アンケート結果は、各教員による教育内容の改善を促す手段として活用されている。

## 3 学生の受け入れ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

【学部が求める人材】

社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 物事を論理的に考察することができる。
3. 自分の考えを的確に表現できる。
4. 入学後の修学に必要な学習意欲や問題関心を有している。
5. 社会現象を多面的にみる態度を有している。

一般入試（A方式、T日程、大学入試センター試験利用入試）では、「国語」「英語」の他、「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」「数学」の試験科目を通して、総合的基礎学力を評価する（上記1～3）。

推薦入試（指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦入試）では、基礎学力の一定の評価（上記1～3）を前提に、作文、面接等で学習意欲、問題関心等を評価する（上記4、5）。

特別入試（留学生入試、転・編入試）では、基礎学力と学習意欲、問題関心を確認するとともに（上記1～5）、多様な学生を受け入れることによって、学部の活性化を心がけている。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい  いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい  いいえ

（～200字程度まで）※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

執行部を中心に、入学センター提供の資料や助言も加え入学定員・収容定員の充足状況を年度毎に検証している。従来、学部全体で問題となる超過・未充足はとくに見られなかったが、2016年度は定員に対する入学者の割合が23%超過、2017年度は15%超過となった。基礎演習や外国語クラスなどの増コマなどの対応を速やかに実施したが、次年度の受け入れについては、従来以上に徹底的に方針を議論することとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率（2012～2016年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	700名	742名	742名	742名	742名	
入学者数	725名	733名	773名	736名	917名	
入学定員充足率	1.04	0.99	1.04	0.99	1.24	1.06
収容定員	2800名	2842名	2884名	2926名	2968名	
在籍学生数	3242名	3223名	3183名	3119名	3316名	
収容定員充足率	1.16	1.13	1.10	1.07	1.12	1.12

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 （心理学、社会福祉に関する分野を含む）	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・学生募集及び入学者選抜については、結果を教授会で報告・議論し、執行部を中心として検証している。とくに入試委員会での議論を受け、入学センター提供の資料や助言をもとに年度毎に検証し、教授会の意見も受けて、執行部を中心として次年度の方針を決めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・留学生入試について、渡日前入試を初めて実施した。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度、2017 年度と 2 年連続で入学定員を大幅超過したことをふまえ、入学センターとも意見交換・情報交換をしつつ、定員管理について適切な対応を検討する。

【この基準の大学評価】

社会学部では、求める学生像が明確に提示され、必要とされる知識水準・資質・姿勢等が入試方式(経路)別に明示されている。

入学定員・収容定員の充足状況は執行部を中心に年度毎に検証され、それにより 5 年平均値はおおむね適正な範囲を維持している。ただし、定員を大幅に超過した 2016 年度に続き、2017 年度も定員超過を招いており、正確な予測が難しい事柄ではあるが、次年度での改善が期待される。入学者に対しては増コマなどの適切な対応がとられているが、総体としての学習環境の面で在学生へのきめ細やかな配慮が求められよう。

学生募集及び入学者選抜については、教授会での議論を経て執行部での検証が行われ、それをもとに次年度の方針を決定する体制が整えられており、その成果の一つとして留学生入試の渡日前入試が新しい取り組みとして実施された点も評価できる。

4 教員・教員組織

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011 年度自己点検・評価報告書より)

社会学部の理念・目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿って学生を指導し、学生たちの自己探求と社会問題への取り組みを多様な形で促進・媒介・指導することのできる教員を求める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

また教員組織の編制方針は、本学部のカリキュラム・ポリシーに従って、学生への教育責任を果たすことができるよう、教育課程を構成する3段階（第1期から第3期）において、各専任教員がその一翼を担える仕組み作りを行なう。

具体的には以下のとおりである。

- ・第1期である学部教育への入門期では、各学科入門科目群は原則として専任教員が担当する。その要である基礎演習担当は原則として開講科目数の半分以上を専任教員が担当する。
- ・第2期では、7コースと・プログラムのカリキュラムの中心は、可能な限り専任教員が担当する。また専門演習である演習1と演習2は専任教員が担当する。
- ・大学生活の総仕上げである第3期では、とりわけ卒業論文作成の指導を実質的内容とする演習3は専任教員が担当する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい  いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

【一般規則】

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聘特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用
- ・公募実施細則
- ・専任教員の身分昇格、昇格基準
- ・法政大学名誉教授規程
- ・兼任講師委嘱基準

【採用・昇格の方針】

- ・求める教員像および教員組織の編成方針
- ・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申
- ・人事構想委員会答申

【2016年度の実績】

- ・公募資料
- ・教授会議事録（新規採用 11/22）
- ・教授会議事録（昇格人事推薦 11/22）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい  いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

【学部執行部】学部長（1名：全体統括）、主任（2名：教務・人事主担当＋入試主担当）、副主任（1名：学生生活担当）

【学部内の基幹委員会】

- ・教務委員会（学部長、主任、教務委員で構成され、教務事項全般の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- ・外国語教育委員会（外国語科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- ・調査実習運営委員会（調査実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- ・メディア実習運営委員会（メディア実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- ・情報教育委員会（情報教育科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- ・FD委員会（教育改善のためのFD事業の検討・実施・評価等を行い、教授会に提案・報告する）
- ・学生生活委員会（学修活動の基礎となる学生生活の環境整備等に関する方針を決定し、教授会に提案・報告する）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各種委員一覧

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい  いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

現行カリキュラムは、教授会構成員の専門性を最大限発揮できるよう、その構築段階から組織的に設計されてきた。また、教員の転出、退職に伴う新任採用においても、カリキュラムの維持発展を第一に考えて行っており、カリキュラムと教員組織の対応関係は整合的である。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・求める教員像および教員組織の編成方針
- ・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申
- ・2011年度人事構想委員会答申

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部専任教員のうち8割近くが学部と大学院の双方に関与しており、大学院教育との連携は密になされている。また、大学院執行部と学部執行部の意思疎通も適宜行っており、双方の連携が図られている。

大学院への進学を希望する学部生に対しては、内部進学者向けの大学院入試を行い、学部から大学院への一貫した教育と相互の協働を図っている。また、「外書講読」や「原典講読」といった一部科目については学部と大学院の「合併開講」としており、学部と大学院が相互に連携しながら、学部生・大学院生双方の教育にあたっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度社会学部履修要綱
- ・2016年度大学院履修要綱

2016年度専任教員数一覧

(2016年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
社会政策科	15	7	1	0	23	12	6
社会	18	8	1	0	27	15	8
メディア社会	12	4	0	0	16	12	6
学部計	45	19	2	0	66	39	20

専任教員1人あたりの学生数(2016年5月1日現在): 50.2人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】 (～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

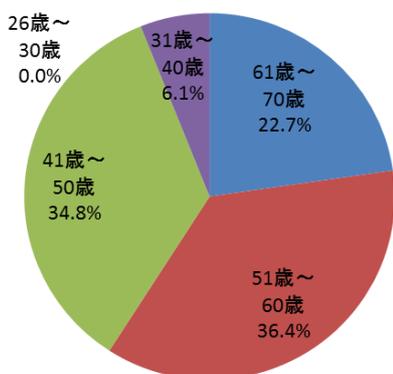
- ・特になし

年齢構成一覧

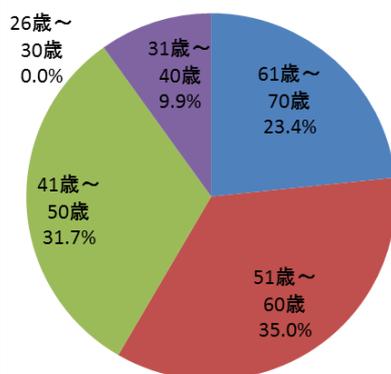
(2016年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2016	0人	4人	23人	24人	15人
	0.0%	6.1%	34.8%	36.4%	22.7%

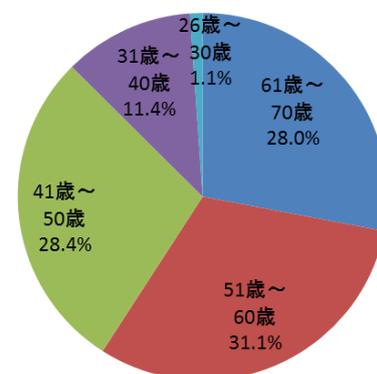
年齢構成比  
(2016年度社会学部)



年齢構成比  
(社会学部過去5年平均)



年齢構成比  
(2016年度全学部平均)



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p><b>【根拠資料】</b> ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員招聘規則</li> <li>・専任教員招聘特例措置申合わせ事項</li> <li>・研究助手の採用</li> <li>・公募実施細則</li> <li>・専任教員の身分昇格、昇格基準</li> <li>・法政大学名誉教授規程</li> <li>・兼任講師委嘱基準</li> </ul>	
②規程の運用は適切に行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【募集・任免・昇格のプロセス】</b> ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員の募集については、原則公募方式とし、教授会での採用方針や募集方法について十分な議論を行っている。免職については、他校への転出による自己都合退職や定年退職以外で、審議を必要とするような事案は生じていない。</li> <li>・昇格については、資格を有する教員の申請によって、常設の昇格推薦委員会においてその適切性を判断した上で、さらに専門に近い教員による審査委員会を設置して研究業績等を十分に審議し、教授会の承認を得ることにしている。</li> </ul>	
4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。</li> <li>・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。</li> <li>・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。</li> <li>・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。</li> </ul> <p><b>【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>【開催日】4月12日、4月26日、5月10日、5月24日、6月7日、6月21日、7月5日、7月19日、9月20日、10月11日、10月25日、11月8日、11月22日、12月6日、12月20日、1月17日、1月31日、2月28日、3月14日</li> <li>【場所】社会学部棟8階会議室B</li> <li>【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、課題・評価）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介Weeks）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD推進センターとの連絡調整）、Ⅴ. 今後の課題（学習サポーター・大規模授業アシスタント運用方法の整備・改善、FD活動の情報共有のための実践的取り組み）</li> <li>【参加人数】FD委員6名</li> </ul> </li> <li>・基礎演習担当者懇談会 <ul style="list-style-type: none"> <li>【開催日】(1)7月12日、(2)1月10日</li> <li>【場所】多摩総合棟5階第一会議室</li> <li>【テーマ・内容】(1)春学期の学生の様子について、基礎演習の今後のあり方について (2)今年度の学生の様子について、基礎演習のセメスター化の運用および結果について</li> <li>【参加人数】(1)35名、(2)36名</li> </ul> </li> <li>・外国語関連科目担当者会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>【開催日】3月30日</li> <li>【場所】多摩総合棟5階第一会議室</li> <li>【テーマ・内容】社会学部語学カリキュラムについて、2016年度授業のふり返り、2017年度クラス規模について</li> <li>【参加人数】34名（教授会主任1名＋専任5名＋兼任28名）</li> </ul> </li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・情報教育関連コース・プログラム会議

【開催日】9月27日

【場所】多摩総合棟4階第三会議室A

【テーマ・内容】2016年度導入新カリキュラム進捗状況、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2017年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の広報と将来構想

【参加人数】6名（専任6名）

・調査実習運営委員会

【開催日】4月1日、9月27日、11月1日、11月7日、12月1日、12月8日、1月10日、3月13日

【場所】社会調査室、多摩総合棟5階多目的ルーム（11月7日以降の会議はメールで持ち回り）

【テーマ・内容】（4月1日）2015年度実習のふり返り、2016年度実習運営、2017年度実習担当者の確認、（9月27日）社会調査教育の未来構想、コース・プログラムガイダンス担当者の確認、（11月1日）カリキュラム改変にともなう社会調査実習関連科目の位置づけについて、（11月7日）次年度社会調査士科目認定申請、（12月1日）次年度社会調査士資格申請に関する掲示、（12月8日）教学改革における他学科との調整について、（1月10日）2016年度社会調査士資格申請希望者への指導について、（3月13日）2017年度科目認定申請認定結果、実習概要報告書提出の連絡

【参加人数】専任教員6～9名

・体育科目担当者懇談会

【開催日】(1)7月15日、(2)1月13日

【場所】多摩総合体育館2階講師室

【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理、(2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理

【参加人数】(1)16名（専任1名＋兼任15名）、(2)16名（専任1名＋兼任15名）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度FD委員会報告書

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

社会学部では、採用・昇格に関する内規や申し合わせ事項等が整備されており、これら一般規則に加え、学部作成の採用・昇格方針及び将来構想委員会・人事構想委員会の答申を介して教員に求める能力・資質等が明らかにされており、適切である。執行部の構成、学部内に設置されている基幹委員会の役割分担も明確である。

教員組織については、大学設置基準を上回る十分な専任教員数が確保され、組織編制に際し先の編成方針・答申等に基づいてカリキュラムとの整合性が担保される仕組みがとられていることは評価できる。また、学部専任教員の大半が学部と大学院双方に関与し、両執行部間の意思疎通も適宜なされ、学部と大学院の合併開講の科目が設置されるなど、学部と大学院教育との連携も適切に配慮されている。教員の年齢構成も、全学部平均に照らして大きな偏りはなく、中堅層の充実が特徴的である。ただし割合の小さい若年層が昨年度よりもさらに減少しており、将来構想においてこの点に留意されることが望ましい。

教員の募集・任免・昇格については、専任教員招聘規則等の内規が整備され、その運用も適切に行われている。

FD活動に関しては、FD委員会が演習教育向上や授業支援などをテーマに原則隔週で開催されているほか、授業参観や特定分野毎の懇談会等を通じた教員間の情報共有が図られるなど、授業改善に向けての積極的かつ恒常的な取り組みがなされていることは高く評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生、卒業保留者、留年者、休・退学者の状況については、執行部、教務委員会、教授会という三つのレベルで把握し、その内容を共有している。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の基礎演習において、担当教員が初年次教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。</li> <li>・2年次以降の専門演習において、担当教員が専門教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。</li> <li>・全教員がオフィスアワーを設定し、学生からの希望に応じて修学支援を行っている。</li> <li>・2015年度から「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行っている。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の事情に応じた個別的な対応として、演習を通じた学生への働きかけを適宜行っている。基礎演習および専門演習の担当教員が、必要に応じて学生に接触し、学習への動機づけをつくり出すべく対応している。</li> <li>・学部による制度的な対応として、2015年度から「個別学修相談会」を実施している。前年度のGPAを通算して0.8以下かつ進級要件を満たしていない学生を対象として、保証人宛てに面談の通知を行った。2016年度の実績として、6/8から6/24の期間に、15名の学生（8名は保証人も同席）に対して教員1名と職員2名が履修に関する指導を行った。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生と教員が一堂に会する「留学生懇親会」を企画することで、修学支援を進めている。外国人留学生が交流して、互いに学生生活を支え合う非公式なネットワークづくりを促すと同時に、教員と歓談しながら様々な修学上の問題を相談できる機会を設けている。2016年度の実績として、6/27に「留学生懇親会」が開催され、**名の外国人留学生と国際交流委員会・執行部の教員が参加した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

社会学部の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は執行部・教務委員会・教授会により把握され、情報が共有されている。

学部としての修学支援は、1年次の基礎演習および2年次以降の専門演習における少人数教育並びに全教員によるオフィスアワーを利用して行われている。

成績不振学生への対応としては、個別的には演習を通じた働きかけが行われているほか、学部による制度的対応として「個別学修相談会」が設けられている。後者においては、所定の前年度 GPA 基準かつ進級要件を満たしていない学生を対象に履修指導を内容とする面談が実施され、かつ保証人との情報共有が図られている点において高く評価できる。

外国人留学生に対しては、教員参加の「留学生懇親会」を開催して、留学生同士の交流を促し、また教員と修学上の相談ができる機会を設けていることは適切である。

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>7 コース 8 プログラム制の自由度の高さは複雑さを生む可能性がある。ガイダンスや履修相談で対応してきたがより効果的な学修のシステムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を 2016 年度に設置した。</li> <li>基礎演習セメスター化により生じた変化をフォローアップする予定である。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>2016 年度は、教学改革・人事構想委員会を設置して、3 学科の理念と性格づけから具体的なカリキュラム改革までの検討を進め（学期中に隔週で委員会を開催）、改革案を教授会で議論し、2018 年度からの 3 学科の新しいコンセプトとカリキュラムの体系をほぼ決定した。新しい方向性は、学部全体としてのカリキュラム体系の豊かさを極力維持しつつも、履修方法の複雑さを軽減し、学科ごとの教育・学修内容の特徴をより明確にするというものである。</li> <li>基礎演習セメスター化によって生じた変化については、春学期、秋学期の終了後にそれぞれ担当者による懇談会を開催し、フォローアップを行った。教育・学修内容の目標は、春学期が大学での学修方法の基礎の修得（文献講読、レジュメ作成、報告、ディスカッション、文献・資料検索等）、秋学期が春学期の学修成果をふまえた研究テーマの設定と論文執筆とし、その成果について確認した。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、「教学改革・人事構想委員会」を設置し、学科別の体系的な教育を目指すカリキュラム改革の検討を丁寧に行っていることは評価できる。とくに 2018 年度からの新カリキュラムが各学科の特徴を従来よりも明確にする方向にあることから、学科別の懇談会を重ねていることは評価に値する。10 年間続いた「7 コース・8 プログラム」制は専門教育を深める点で課題を残していたため、新カリキュラムでは各学科における専門科目の履修を通して、学生が能力を形成できることが目指されている。今回学科とコースの関連が整理されたが、新カリキュラムを実際に円滑に運営するには、コース、科目群の体系や、新設する個別科目のディテールについて、今後さらに詳細かつ具体的に詰めていくことが求められる。今後もカリキュラムを見直していく必要がある。そして新たなカリキュラムに基づく人事構想を推進することが次年度の課題である。</li> <li>基礎演習のセメスター化に伴う、前期と後期の学習内容とその成果の検証を行うなど、基礎演習の運営改善に向けた取り組みは適切と判断されるので、その成果について担当者間で問題意識を共有しながら、不断の見直しを重ねていくことを期待する。</li> </ul>
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員の授業方法をより広く共有する仕組みについて、教員の相互参観の一層の推進を含め、FD 委員会で検討を進める予定である。</li> <li>授業改善アンケートの回収率向上のために、学生への呼びかけをより一層強化する予定である。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員の授業方法をより広く共有するために、(1)オムニバス型授業、(2)外部のゲスト講師授業、(3)専門に近い専任の授業のそれぞれについて、授業の相互参観を実施し、授業方法</li> </ul>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>や内容について意見交換を行った。FD 委員会では、ゲスト講師授業の情報の集約と事前の周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善アンケートの回収率向上のために、教授会で各教員（兼任含む）に文書で依頼を行い、学生への呼びかけを強化した。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育方法の改善に向けた取り組みに関し、関連する授業担当者間の意見交換やゲスト講師の活用は成果をあげつつあるので、さらに進めていくことが望まれる。教育方法に関して、社会学部はきめ細かい取り組み（A+評価のガイドライン設定、履修指導、基礎演習担当教員の意見交換など）をおこなっており、評価できる。</li> <li>授業改善アンケートについては、学生サイドの受け止め方を確認しつつ、引き続き回収率向上に向けた努力を重ねるとともに、必要に応じアンケートの内容や位置づけについて、FD 委員会を中心に検討を続けていくべきであろう。そのなかで学生に専門知識を身につけさせるべく、今後新たなカリキュラムを生かす教育方法について検討することが望まれる。</li> </ul>
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>GPA の有効活用など、学習成果を測定するための他の方法を検討する。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>GPA の有効活用の一環として、前年度の GPA データをもとに、成績不振学生に対する「個別学修相談会」を行った。</li> <li>大学評価室が IR の一環として行っている、GPA データを用いたトライアル分析の結果を教授会で紹介し、今後の検討の素材とした。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	<p>社会学部は、教育成果の確認において必要な措置（学部研究発表会、卒業論文集の発行、調査実習科目の報告書など）を取っており評価できる。GPA の有効活用の一環として、前年度の GPA データに基づく成績不振学生に対する個別学習指導の努力は高く評価されるので、今後、その効果のフォローアップを踏まえながら、より効率的な指導につなげていくことが望まれる。こうした試みは、同時に GPA データの位置づけの確認やその一層の活用にも寄与していくものと判断される。新カリキュラムの導入に伴い、成果確認方法変更の必要性も検討することが望ましい。</p>

#### 【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

7 コース 8 プログラム制の複雑さを改善するという課題に対しては、2016 年度に教学改革・人事構想委員会を設置して、学科ごとの教育・学習内容を再検討してそれぞれの特徴をより明確に打ち出すとともに、より集積的な教育体系をもつ新カリキュラムが決定されており、その取り組みは高く評価できる。今後は、その円滑な導入に向けて細部の検討が進められることが期待される。

基礎演習の Semester 化により生じた変化については、各学期終了後に担当者懇談会を開催して各学期の教育目標及び成果の検証が行われており、適切である。

教育方法の改善に係る課題である、各教員の授業方法をより広く共有する必要性に対しては、授業の相互参観を実施し、ゲスト講師を含め、関連する授業担当者間の意見交換の機会を確保する対応が適切にとられている。授業改善アンケートの回収率は、システム自体に由来する面もあり学部の努力だけで向上させることに限界はあるものの、担当教員を介した学生への呼びかけの強化が試みられている点は、評価できる。今後は、回収率を上げるその他の工夫、例えばアンケート回答の意義への学生の理解を高める方策なども検討されることが望ましい。

学習成果の測定方法としての GPA の活用という課題については、前年度 GPA データに基づく成績不振学生に対して「個別学修相談会」を実施し、GPA の有効活用例として高く評価できる。

#### 【大学評価総評】

社会学部では、体系的・段階的・自律的学修を志向した 4 つの基本指針のもと、教養・専門教育に即して充実したカリキュラムが提供され、また、その教育成果に対する検証もきめ細やかに行われるなど、意欲的に教育課程・教育内容の向上への取り組みがなされている。内容の豊富さと履修の自由度の高さを特長とする 7 コース 8 プログラム制についても、履修選択上の複雑さを伴うという課題認識の下、2016 年度に発足した教学改革・人事構想委員会において、学科ごとの特徴をより明確にして学科とコースの関連性を整理し直した新カリキュラムを決定し、専門教育の一層の深化を図っている点は高く評価できる。2018 年度からの新カリキュラムの実施に向けては、前記委員会に加え、学科ごとにカリキュラム運

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

営会議を設けることにより、細部にわたる準備作業が進められており、次年度における円滑な導入が期待される。

学生に対する履修・学習指導、学習成果の把握についても充実した取り組みがなされている点において高く評価できる。今後は新カリキュラム導入に伴って、その周知の徹底、履修指導における格別な配慮といった、学生の混乱を極力回避する方策を整えるとともに、導入効果の把握・分析・共有の仕組みづくりや学習成果の確認方法の再検討への取り組みに期待したい。

---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。